

昨日は「絵本と木のおもちゃ 横田や」さんから本を子供たちが自由に選ぶ日。3階の青空ホールと図工室の仕切りをはずした広々とした空間に、なんと545冊の絵本や児童書が展示された。全て昨年度以降に発行された最新の本である。

子供たちは一人2冊まで選ぶ「投票権しおり」があるが、日頃からたくさん本を読んでいる子供には、「優先権しおり」も与えられる。(予算の都合で、投票した本が必ず、図書室に並ぶとは限らないが…)

どの学年の子供もずらりと並べられた本に、まさに目を輝かせて飛びついていく。タイトルに惹かれ表紙をながめる。ページをめくる。おもしろそうだ。でも2冊までしか選べない。簡単には決められない。また別の面白そうな本が次々と見つかる。500冊以上あるのだ。マスク越しの笑顔がキラキラしている。ようやく決めた1冊に「投票権しおり」をはさむ。あと1冊を選ぶのに「全集中！」である。

30分なんてあっという間である。先生の「もうすぐ時間だよ！」の声に慌てて、そして覚悟を決めて最後の1冊に「投票権しおり」をはさむ。どうかこの本が選ばれますように…と願いを込めて。

町からの児童図書の予算に、田中建材さんから寄付いただいたお金を足して、できるだけ多くの「子供たちの読みたい本」を購入することになる。

「校長先生！月曜日には本が届くの？」「大急ぎで頼むから少しだけ待っていてね。(ギリギリ年内か)」

6年生は卒業までに選んだ本が読めるのか？心配そうだが、長瀬小は君たちの母校。中学校に進学しても、いつでも図書室は君たちを待っているよ。